資料2

（案）

第３回　船井電機跡地施設整備基本計画策定検討委員会
委員会からの意見等と市の考え方

１．開催日時：令和６年１１月１１日（月）１３時３０分から１６時まで

２．委員会からの意見等と市の考え方

（１）図書館に関する意見

意見の主な内容	市の考え方
資料３の４頁では次回、図書館と多目的ホールの導入機能と規模を整理するとなっていると思う。	今回の多目的ホールの使われ方の検討が終了したとは考えておりません。次回も多目的ホールの使われ方の検討を引き続き行う必要があると考えており、図書館と多目的ホールの導入機能と規模をお示しするには至りません。
資料３の８頁の図書館閲覧コーナーの10人掛けテーブルは大きすぎないか。壁に書架があるが凄く圧迫感があるのでないか。	８頁は、あくまで規模検討のモデルプランとして整理したものであり、具体什器をお示ししたものではありません。壁面書架は内装意匠的な意味合いがあります。
厳密に図書を管理するのであれば BDS※を入れないと無理ですが、このあたり整理をいただきたい。	他の自治体で BDS※を置かれていない公立図書館もあり、今後の検討と考えております。
前回、郷土資料の収集方針の検討が必要としていたが、具体的な検討はどうなっているか。	郷土資料はオープンスペースのエリアとするか、諸室を設けるかは今後の検討となります。
※BDS（Book Detection System　ブック ディテクション システム） 図書館おいて、図書に磁気テープ／IC タグを取り付けることで「図書の持ち出しや盗難防止の管理を行うセキュリティシステム	

（２）多目的ホールに関する意見

意見の主な内容	市の考え方
可動式の椅子はどのようなものをイメージしたら良いのでしょうか。 予算として（固定席と可動席では）大きく変わりますか。	一般的な可動席の収納方法は例えばロールバック方式※などがあります。事例では、ボタン一つで後方から折り畳み式の椅子が出てきます。また床下収納式などの事例もあります。 可動席は概算で１席あたり 30 万円ぐらいの計算となります。可動席であれば（収納すれば）平土間としも使用もできるが、固定席とした場合は平土間にはできないことが大きな違いです。そのあたりの費用対効果も考えた空間の使い方をご検討をいただきたい。 ※ロールバック方式 移動観覧席で、観覧席を折りたたんで壁面や舞台下に収納することで、多様な空間活用を可能とする。
固定席と可動席を比較した場合、イニシャルコストやランニングコストともに、可動席が高くなる。再度固定席で検討できないか。 （固定席を望む理由について） 可動席と比較して固定席は安定していると思う。また可動席はメンテナンスで大変だ。施設見学の機会がある場合は可動式と固定式の両方を見比べてほしい。	可動席で決定したわけではありませんが、多目的な利用や災害時の利用を考えた場合、可動席で検討していきたいと考えます。なお、固定席でも多目的な利用や災害時の利用の妨げないものがあれば検討していきたいと考えます。 メンテナンスについては、ご指摘のとおり年に２回必要で、100 万円程度の費用もかかるものと考えております。座り心地は双方とも遜色がないものと考えています。 可動式と固定式のそれぞれ良いところを確認したいと考えます。

（案）

今回の資料や進め方は、これで決定したので、今回の基本計画策定検討委員会で認めてほしいという位置づけでしょうか。 可動席で決定したような印象を受けた。	前回の基本計画策定検討委員会で多目的ホールについて、市の考え方を示してほしい旨のお話をいただいたので現状のたたき台としてお示しさせていただきました。 今回会議ではたたき台を基にご意見をいただき、今後、その内容を基に事務局でブラッシュアップしていきたいと考えています。 可動席で検討させていただきたい旨を説明をしましたが、イニシャルコストやランニングコストの考え方もあり、決定事項ではありません。 最終的には施設がどのように使われるかというところにあります。イニシャルコストやランニングコストというものも判断材料として、基本計画策定委員会の中で話し合って決定していくものと考えています。
現状の池田総合体育館では舞台設備がない。多目的ホールの規模やグレードの検討基準では 500 人程度ぐらいで検討を進めてほしい。近隣自治体では 500 以上 600 程度の施設があり、運営の仕方で可動率も高くなる。	検討基準では、施設の使われ方が前提となります。施設がどう活用されるのかという点を考えていかなければならないと考えます。施設の使われ方に関して具体な活用方法や他の事例をお教えいただければ、事務局で検討させていただきます。
先日県内公共施設のホールの可動率の一覧が新聞で掲載されていたが、20％から30％がほとんどであった。資料３の 17 頁にお示しされた 300 席から 500 席、機能はグレードや規模に応じたプロセニアム形式が望ましいとあるが、この方向で進めていただけたらと思う。 施設運営についてだが、今現在で運営をどのように考えているかお教えください。	今回お示ししました内容はたたき台としての内容であり、各委員からのご意見をいただく中で、再度使われ方をブラッシュアップしていきたいと考えています。 運営管理体制は、施設の使われ方が決まった後、検討していくことと想定しています。

資料３には池田総合体育館との連携とあるが、池田総合体育館はほとんど日曜日の予約がとれません。なかなか連動した形を考えるのは難しいと思います。	池田総合体育館との連携ですが、例えば池田総合体育館では従来から木育フェスティバルといった体験イベントが実施されているわけですが、それにあわせ、多目的ホールでは木育に関する講演に使用するなど、従来イベントの拡充というものも考えています。 また、市内各所で個々に実施しているイベントを新しい施設で統合的に実施可能か検討できればとしたところです。
資料３の 16 頁に舞台機構、音響、照明、内装がそれぞれどのレベルで整備していくのか見極めが必要かと思う。 これまで様々なホールを見てきたが、市民レベルの使い方では舞台設備を使いこなせる人がいないことから標準的な使い方しかしていないとか、音響は進化スペードが速いため、すぐに入れ替えなければいけなくなるとかいうお話を聞いた。 建築的には内装に関しては一度整備したものは作り変えるというのは難しいので、ある程度のものを最初に整備される方がよいかと思う。	今後も他の事例の収集や専門家の知見を資料としてお示しし、基本計画検討委員会でご議論をいただくなかで整理してまいりたいと考えています。 これまでプロセニアムステージかオープンステージかで資料をお示しし、議論をいただいていますが、音楽専用ホールではオープンステージの事例もあり、次回にあらためて訂正資料をお示しいたします。
経済団体を代表して出席しているが、団体内でアンケートやヒアリングを実施してきた。その内容を説明する時間がないなか、次回も同様な議論ができると聞いた。 経済団体では多目的ホールを起爆剤としてまちを活性化させたいという観点で考えている。やる気や前向きな姿勢をどう盛り込んでいくか。具体的な集客の数としては最低でも 800 人で 44%、1,000 人以上が 27%、両方合わせると 72%が 800 人以上の施設を望んでいることをお伝えする。	各種団体のご意見は様々あり、事務局としてもその思いは受け止めるところです。基本計画策定検討委員会では、規模ありきでなく、どう活用するかという観点での議論を成熟させる必要があろうと考えます。 次回では、各委員から活用方法などをお示しいただけるよう検討を願います。

どんな使い方をするのかというのもアンケートをとっているが、時間がないのでやめておく。 地方創生にどう役立てていくかというところも議論が必要ではないか。災害時に役立てるため更地にしておくとなったらネガティブになる。	
興行主へのヒアリングですが、ネガティブな意見をする興行主を集めたという気がする。多目的ホールを起爆剤に地方創生でこの地を盛り上げることを興行主は考えてくれるのでしょうか。前向きなことを拾い上げてくれているのでしょうか。お手伝いをしましょうという前向きな興行主を集めたら全然違う意見であったと思いますが、そのあたりご検討いただきたい。	興行主は意図的に選別したわけではございませんが、今回まとめさせていただいたヒアリング結果は興行主の意見から抜き出したものです。 興行主は使う側であり規模に関係なく利用できるホールの選択肢が増えることは望まれるものと解されますが、一方でどの施設を利用するかの選択権は興行主側にあります。そのことを十分に踏まえたヒアリングが必要と考えます。

（３）施設全般に関する意見

意見の主な内容	市の考え方
（駐車場について） 駐車場について、十分な数を確保できないのではないか。隣接する池田総合体育館のスペースも使わなければならないのでは。 資料３のように、屋外（イベント兼駐車場スペース）でイベントを実施した場合、駐車場が不足する。イベントはホール内を使用したものに限定されるのか。駐車場の確保は災害時の使われ方にも影響するので、ある程度平場で確保する必要がある。	平置き 1 区画の大きさの設定や通路の確保など一定の条件下で敷地全体で算出した場合、概算として 500 台程度を確保できるものと想定しています。 資料３におけるイベント等は本基本計画策定検討委員会でのたたき台としてお示しさせていただきました。今後、施設の使用目的や想定する規模や利用者数などが決定する段階で駐車施設のあり方を検討いただきたいと考えております。
（駐車場について） 船井跡地の面積はいくらでしょうか。	約 15,000 から 16,000 ㎡であったと思います。（正確には敷地面積：16529.07 ㎡）

事務局から駐車場の台数が 500 台とのお話があった。近隣市のホールの敷地面積は 19,000 ㎡で大ホールが 1,200 席、小ホールが 300 席、多目的ホールが 400 席で、駐車場が 600 台とあるが、この違いは。	概ね 500 台の算出根拠は、その条件設定として駐車区画を 2.5m×5.0mを１区画としたほか、場内に車両用通路を十分に備えたものとして算定しています。 近隣市の情報は詳細な図面情報によるものではありませんが、駐車場については 379 台に追加で「まちなか駐車場」168 台という表現をされていました。379 台も敷地内か否かは分かりません。 他の事例では、周辺駐車場を利用する例もあります。
多目的ホールは、常時可動しているわけではない。イベントの時しか可動はしない。このためにぎわいという面では厳しいものがある。他の自治体の事例では社会福祉協議会や商工会が複合施設に入居していた。市でもそのあたりを検討していただけないか。	そのような事例があることは承知していますが、先ず施設をどう活用するのかの検討が前提になるものと考えます。ご提言いただいた内容は、施設の大きな方向性が決まった後の議論にあたるものではないかと考えております。
資料３の災害時の活用検討に関す記載事項で、最大震度 5.9 とあるが一般的には震度 6 弱という表現がよろしいのではないか。 資料３の 24 頁の被害想定では中心市街地の被害想定と施設の使われ方が表記されているが、25 頁では中心市街地ではなく周辺山間部での土砂災害や過去の雪害等の災害時における施設のあり方を記載しており、両ページに違いがある。	表記の内容は検討させていただきます。 資料３の 24 頁では、それぞれの災害による被害想定を踏まえ地理的条件から施設が使用可能か否かを検証しています。25 頁では 24 頁の結果を受け、事務局案として、発生確率が高い災害への対応や、広域避難所である池田総合体育館の避難生活の支援として災害時の使われ方を考えたところです。 なお、多目的ホールに備える照明やバトンなどの吊り物を不安視する考え方もあることから、避難所としていません。

中心市街地の被災は別途検討するとしているが、仮に大きな被害が想定される地震災害で直後に車両通行が可能であれば、住民の方は車中泊が増えてくる。そういう意味でも駐車場は災害時の利用が必要されるので、災害の専門家に十分に相談いただきたい。	内部機関等のヒアリングを踏まえ、災害時における具体機能についてブラッシュアップしてまいります。

（４）その他の意見

意見の主な内容	市の考え方
前回、事務局から若者の意見を、基本計画にしっかりと反映できるタイミングでお聞きする旨の回答をいただいていますが、これは一般的なパブリックコメントで行うものではないと理解していますが、現状の目途などお教えいただけますか。	各委員から様々な角度からご意見をいただき、基本計画策定検討委員会として、ある程度の形がお示しできる段階で、お聞きするほうが良いのではないかとは考えています。
基本計画策定後で構わないので、基本計画を示していただきながら、障がい者団体とか福祉団体、ボランティア団体などの意見聴取をしてほしい。	基本計画策定後に個別各種団体への意見聴取を行うか、または他の手法により行うかなどは別途検討いたします。